ゆり組

これがこんなに大きくなるなら

９月に生まれたザリガニの赤ちゃん。お母さんが逃げ出してしまい，くっついていたお腹の赤ちゃんとともに命を落としてしまいましたが，水槽に残った赤ちゃんたちは命をつないでいます。個体差はあれ餌を食べて着々と大きくなってきています。

ある日，園長先生に機材をつないでもらい，実物投影機で赤ちゃんを映し，テレビに映して見てみることにしました。１センチほどの赤ちゃんが，テレビの画面なかで，20 センチほどになって見ることができ，Ａちゃんは「映った映った！」と声をあげます。「ハサミがある」「ちょっと赤いな」「（大人の）ザリガニとおんなじや」と気づいたことを言葉にしていきます。小さいながらによく動く子どもたち。画面からいなくなったり，また現れたり，餌を食べたりするたびに「あ，来た来た」「わ，他の子と会った」「わ！けんかしてる」といろいろなことに気づき，小さなザリガニたちの暮らしぶりをじっくり見ることができました。

そうして赤ちゃんのザリガニを見ていると，Ｂちゃん「これ（赤ちゃん）がこんなにおっきくなるなら，こっちのザリガニはどうなるんやろう」と，大人のザリガニのたらいを指しました。Ｃちゃん「すごく大きくなるんじゃない」そこで先生「じゃあ今度は大きなザリガニさん映してみる？」と交代しました。ピントを合わせると…「うっわー」「でっかい！！」と驚きの声をあげます。大きさに驚いたのち，今度はじっくりと見始め，「ここ，ギザギザなんや」「粒々の模様がある…」と拡大しているからこそ見えることをたくさん発見しました。

次の日，ダンゴムシをたくさん見つけて可愛がるＤちゃんに「ダンゴムシもおっきくしてみる？」と先生が尋ねると，Ｄちゃん「ううん，いい。ダンゴムシはちっちゃいほうがかわいいから」とのことでした。

見えた見えた！
もう１匹来たよ

でっかいな！

子どもたちにとって，実物投影機は，『小さいものが大きくなる魔法の機械』のようなものに見えたのかもしれません。大きくすることで，小さいけれどしっかりザリガニの姿をしていること，ちょこまかと動く姿，他の子どもと会うとピッ！と跳ねて逃げたり飛びついたりする姿など，本当に魅力的な様子が見られ，子どもたちも心を動かしていました。そうして楽しみながらも，「これがこんなに大きいなら・・・」と次の興味をもつ姿に，子どもたちの意欲や探求心を感じ，（面白いなぁ！）としみじみ感じされました。また，拡大されるので，本当に大きくなるわけではないけれど，（これが大きくなったら可愛さがなくなるかも）という思いももつのだなぁ。こちらはかわいいダンゴムシへの愛着なのかな？！とこちらもほほえましく思いました。

運動会で楽しんだサッカーをグループの少人数で勝負したり，ばら組さんの長いしっぽを借りて勝負したり，自分たちの踊ったダンスをばら組さんと一緒に踊ったり，パラバルーンで出会った歌を何度も歌ったりして，運動会で楽しんだことを重ねながらみんなでの生活も楽しんでいます。自分たちの遊びを進めていくこと，みんなで一つのことを考えたり，色々な仲間と協働したりすることを大切に過ごしていきたいです。